

陸軍少飛平和祈念の会、会報 No18 号

2020(令和2)年3月

- ◎本会のHP <http://sho-hi.sakura.ne.jp/>をご覧ください。
- ◎第3土曜日AM10～12時に定例会を行っています。ご参加ください。
- ◎会報をメール配信に切り替えています。
メールアドレスを、heiwakinen@sho-hi.jp までお知らせください。

(1) 新会員です。

(賛同会員) 小野雅史さん(宮崎県延岡市)です。よろしくお願いします。
友人、知人に本会への入会をお勧め下さるようお願いします。

(2) 寄付

15期乙北村彦四郎さん、17期吉田金司さんから多額のご寄付を頂きました。来年度の収入に繰り入れ、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

(3) 元少飛、生存者の交流会は中止

3月31日に靖国神社近くの偕行社で計画していました元少飛の方々の交流会ですが、埼玉少飛会の最高齢96歳の11期関さんをはじめ、同じ11期の金崎さん、14期の瀬戸山さんなど多くの方々の意見が「とても靖国神社まで行けない」とのことで、17期の方々のご了承もいただき、残念ながら交流会は中止とさせていただきました。

(4) 共同通信社の配信記事、地方紙に掲載

全国16の地方新聞に掲載されました。HPにアップしましたのでご覧ください。証言集等への問い合わせ、元少飛の生存情報等いろいろがありました。ありがとうございました。

(5) 防衛庁防衛研究所戦史研究センター長への協力要請

2月28日石津センター長に、嶋津、鳥海で協力要請に伺いました。関係する研究者や団体の紹介を受けた外、資料室の利用に便宜を図って頂くことなど、ご協力を頂けることになりました。ご協力に感謝申し上げます。

(6) ビデオ収録

2月13日(木)に16期後藤昭一さんをご自宅で、3月3日(火)に18期坂本幹雄さんを新宿産業会館で、3月15日(日)に15期乙北村彦四郎さんをご自宅でビデオ収録を実施しました。今後会報で概要を報告します。なお4月14日(火)に16期の田中通義さんのビデオ収録を予定しています。

(7) 文字起こし

ビデオ収録した元少年飛行兵のお話を文字に起こす作業ですが、今年度予算の範囲内で進めることとしています。2019年度末に作業の支援を申し出てくれた特定非営利活動法人フォーラム自治研究に依頼することとしています。

(8) 来年度の方針

来年度は、真如苑の助成金が無くなり、主に会費と寄付金で会の運営を行っていきます。元少年飛行兵のビデオ収録を進めていきますが、収録に応じることの出来る生存者が限られてきました。年度内には、地方在住の方々を除き、一定の区切りを迎えることになる予定です。ビデオ収録の文字起こしと証言集の作成は、予算の確保努力と並行して進めていきます。

(9) 16期後藤昭一さんのビデオ収録

少飛16期の後藤昭一さんのビデオ収録を、2月13日、埼玉県入間市のご自宅で、午後1時から4時まで実施しました。

少年飛行兵は、国に奉公するという軍国少年だった例が多いのですが、後藤さんは、家庭環境の故に少年飛行兵の道を選んだと話しています。

15年前に奥さんを亡くし、現在一人暮らしですが、少年飛行兵の時の経験が、今の後藤さんを支えているそうです。以下、ビデオ収録の概要をお知らせします。



(岐阜県生まれ)

昭和2年4月24日、岐阜県武儀郡関町（現関市）に生まれる。昭和9年4月に同郡関町尋常小学校に入学。昭和15年3月に卒業し、5年制の武儀中学校に入学した。中学2年生だった昭和17年、東京陸軍航空学校を志願、同年秋に受験、昭和18年4月上京し東航に入学した。

家は青果商だった。父母と父方の姉2人、母方の姉1人と兄3人がいた。歳が離れていて姉達からは可愛がられた記憶がある。歳の離れた庶子として生まれ育てられた。投げやりな気持ちで過ごす時間が多く、学校の成績も悪くビリに近かった。兄からお前は成績も悪いし、丁稚奉公に行けと言われてショックを受けていた。

東航に志願する時も受験する時も、父親にも実の母親にも相談しなかった。合格した時、父親も母親も反対せずそのまま受け入れてくれた。入学の時には、東京まで父親が付いて来てくれた。入校式の前日、立川に宿泊し、翌日、入校式が終わると父親は帰って行った。

(立川、宇都宮)

昭和18年4月東航に入校。午前には学科、午後軍事教練をやった。体育が苦手で、高い所で片足立ちをして両手を伸ばす姿勢や宙返りなどにとっても苦労した。それ以外は特に問題なかった。食事も良かったし、甘味品もあった。

厳しい区隊長で非常呼集の時に催涙弾を使われたこともある。暗い中で涙を流しながら、軍服軍帽に武器、偽囊（偽装した背囊）などを短い時間で身支度した。夜間行軍の軍事教練では、真っ暗で道が分からず、周囲に沢山あった肥溜めに落ちた者もいた。周囲の雑木林を利用して真北や真西、に真っ直ぐ進む訓練もした。難しいし大変だった。

休みの日は友達と校内で過ごした。校外に遊びに外出したことは一回もない。宇都宮航空学校の時だったか、仲良くなった厨房の職員の家に行ったことがあった。うれしかった。家が近い者は家族面会があり差し入れもあった。家族面会のない自分には羨ましかった。

昭和18年10月には、試験が一緒だった17期が入学してきた。そのうえ、15期乙という制度が出来て、同じ年頃の生徒が沢山入校してきた。軍事教練で、立川に残った17期と一緒に班を組んで訓練したことがある。昭和19年4月に宇都宮飛行学校に移ったが、空襲が激しくなっていて、飛行訓練は出来なかった。

(総決起大会)

東航の時の思い出に、少年兵の総決起大会がある。神宮外苑で開かれて東航も参加した。少年飛行兵だけでなく、少年戦車兵や少年通信兵、海軍の予科練習生なども来ていた。学校で習っていたフープや器械体操などをやった。予科練習生は球形のフープをやっていた。その時、近くの渋谷の民家に二人で宿泊した。日本橋の呉服屋の家だった。西郷従道の使っていた家だったと聞いた。五右衛門風呂が普通だった時代に、西洋式のお風呂があった。楽しかった記憶がある。

(下館、蔚山、春水)

昭和19年の9月から10月、宇都宮から茨城県の下館に移動した。宇都宮で飛行訓練が出来なかったからだ。しかし、下館でも空襲が激しく飛行訓練が出来なかった。飛行場で自転車を走らせながら、「ブースト50」とか「傾斜何度」とか掛け声を上げながら、飛行訓練をした。

昭和20年3月10日、下館を出発して船で釜山に渡り、朝鮮の蔚山・ウルサンに行った。蔚山の飛行場で初めて中間練習機「赤とんぼ」で飛行訓練を受けた。飛行訓練の助教は15期乙だった。彼らは、自分等と同じ18年10月に入校したが、初級校を省略してすぐ上級校へ行き飛行訓練を受けていた。助教になっていた15期乙は、年齢が上だったように思う。飛行訓練の時、伝声管がうまく装着出来ず、指示が理解できずに15期乙の助教から殴られたこともある。蔚山から中間練習機に乗って特攻に行く15期乙を見送ったこともある。赤トンボは真っ黒に塗られていた。

昭和20年4月には、法律が変わって、生徒隊は第5航空軍、宙543部隊として正規の軍隊になった。操縦員は40名ぐらい。その他整備兵や通信兵もいた。20年8月春川・チュンチョンに移動した。移動してすぐに終戦になった。太田・タイデンの高等女学校の校舎に送られ10月まで居た。軍人だけで民間人はいなかった。食料などが多く残っていた。10月中旬、釜山から鳥取の境港に行き岐阜の家に帰った。家族は皆健在だった。兄たちは教員や会社員になっていて、軍人は自分一人だった。

(4年制中学校中退に)

復員してすぐ11月6日に父親が事故で亡くなった。中学校に復学した。3年生か4年生を選べと言われ3年生を選択したら、直後に3年制の新制中学に変わった。そのため4年制中学校中退の扱いになってしまった。炭販売店のアルバイトをしながら定時制の一ツ橋高校に通い、更に法政大学の夜学に4年通った。30歳で卒業した。就職口がなかった。職業補導所で自動車修理を学び、朝鮮戦争で壊れた進駐軍の車を修理した。その後も職を転々とした。

7つの職をかわったがどこでも一生懸命働いた。自分から辞めたことは一度もない。少年飛行兵の3年間の経験があったので頑張れた。仕事は充実していた。今でも少年飛行兵の時の経験が生きている。一人暮らしをしているが困ったことはない。息子たちは女子大の教授と会社員になっているが、少年飛行兵だった戦争の頃の話はしたことがない。戦争に負けたことが負い目になっている。これからの子どもたちには、戦争は絶対にやってはいけないと伝えたい。